

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no

4

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

● 平成28年度 地域教育フォーラムを開催しました。

10月28日(木)に甲斐市の日本航空学園内J-shipホールにおいて峡中地区・峡北地区合同地域教育フォーラムが開催されました。天候にも恵まれ、例年よりも多い470名の参加がありました。開会に先立ち、今年もアトラクションとして、日本航空高校太鼓隊による演奏が行われました。その演奏は、気迫のこもったすばらしいもので、参加者全員がステージに釘付けとなりました。忙しい中、演奏してくださった太鼓隊の皆さんに、感謝いたします。



ワクワク子育て親育ち - 自己肯定感を高める子育て -

山梨県立大学 人間福祉学部教授 高野牧子先生

◎現状の把握と若者の意識 ○家族形態の変容

昔：大家族で、祖父母や兄弟も子育てに参加
今：核家族で、子育ては母親一人で。孤立化。

○女性の社会進出

女性が仕事も家事も子育ても担う。合計特殊出生率 平成26年 山梨県は1.43、全国は1.42で、人口維持に必要とされる水準2.07~2.08を大きく下回っている。危機感をもった政府や自治体が様々な対策を行っているが、依然として少子化傾向は続いている。安心して子どもを産み育てられる社会にしていかななくてはならない。



◎「ワクワク子育て親育ち」プログラムの概要

- ・作成の目的：子育ての不安や悩みを親同士が学び合うことで解消し、子育ての楽しさを実感できる親を増やすとともに、若者に対して子育ての不安を取り除き、その親の姿をロールモデルとして子育てに期待を持つ若者を育む。「子育ては時間的制約や金銭的な負担が増加し、生活の質が下がる」という意識からの脱却を図る。
- ・展開例：〔講習会の開催→ファシリテーターの育成→推進委員会→保護者会やPTAで活用〕、〔保育所、幼稚園、各学校での授業で活用〕、〔若者世代への周知〕

◎若者の自己肯定感、将来の展望

○若者の自己肯定感（内閣府「平成26年度子ども・若者白書」より）

日本の若者は諸外国と比べて、うまくいくかわからないことに意欲的に取り組む意識が低く、つまらない、やる気が出ないと感じる若者が多い。

○若者の将来の展望

日本の若者は、早く結婚して自分の家族を持ちたいと思っており、その意識は欧米諸国と比較しても相対的に高い。一方で、40歳になったとき、結婚しているとか子どもを育てているというイメージを持っている者の割合は諸外国と比較して相対的にやや低い。結婚や子育ての願望はあるが、具体的なイメージが持てていない傾向がある。

◎ワークショップでのワンポイントアドバイス

○「わたしメッセージ」

「○○しなさい」という言い方は命令。命令の言葉は主語が大抵「あなた」になる。「あなたメッセージ」は反発を招きやすい。それに対して、なぜそうしてほしいのか理由を伝える言い方は「わたしメッセージ」と言って「わたし（ここでは親）」の気持ちを伝える言い方である。このような会話を続けていくと、人の気持ちがわかるようになり、思いやりの心が育っていく。



○「自己肯定感」（幼児期を中心に）

身体運動的な自己概念：達成感、成功経験の蓄積（例：縄跳びができた、滑り台で降りられた）→運動有能感（やればできるんだ）→自信を持ち、積極的・意欲的な態度が養える。

- ・できたら、頑張ったら、ほめてあげる。
- ・偏りなく、様々な運動を経験させる
- ・「できた」「やった」という自信をもたせてあげる。
- ・ちょっとだけ難しいこと、新しいことに挑戦させる。
- ・できない子、不器用な子に対しては、原因を見極めて少しだけヒントをあげる。
- ・個人差が大きいので、他の子どもと比較しない。以前と比べて、少しでもできるようになったところを見つけて、ほめてあげる。



◎まとめ

今しかできないこと、今だからできることを積み重ね、子育てを楽しんでほしい。また、子育てしやすい社会の実現のために、職場や地域でできることから取り組んでほしい。

講演の中では2つのプログラムを取り上げて、ワークショップを行いました。隣の人とペアになっての活動で、徐々に盛り上がり、最後は会話がなかなか途切れませんでした。事後アンケートでも85%の方が「良かった」と回答し、「他のプログラムもふれてみたい」という方が88%でした。この「ワクワク子育て親育ちプログラム」は県のホームページからもダウンロードできます。広く活用いただけることを願っています。



【お詫び】当日はプロジェクターの不調のため、高野先生はもとより、参加いただいた皆様にご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ございません。前日、当日と確認しておりましたが、急な不調に対し十分な対応ができませんでした。今回の反省を次年度に生かし、改善を図ってまいりますので、ご理解ください。（事務局）

22名の個性輝く！「ビブリアバトルやまなし2016」

10月2日、日曜日、やまなし読書活動促進事業ファーストステージ「ビブリアバトルやまなし2016」が、県庁防災新館・オープンスクエアをメイン会場に開催されました。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに、ビブリアバトルはいまや各学校や企業の研修、サークル、カフェなど、全国的な広がりを見せる知的書評合戦です。この日は中学生部門で7名、高校生部門で12名、一般部門で3名の参戦がありました。それぞれ自分のお薦めの本を5分間で紹介し、参加者が一番読みたい本を投票して競います。昨年に比べ参加者も多く、紹介する本にも、バトルの想いや個性が強く感じられ、「この本読んでみたいな」と思わせるものばかりでした。様子の詳細は、山梨県社会教育課のHPにUPされていますので御覧ください。各部門のチャンプ本は次のとおりです（敬称略）。



中学生部門：紹介者・中野萌（梨大附属中）大島真寿美『ふじこさん』。高校生部門：紹介者・北原仁（北杜高）トーン・テレヘン『ハリネズミの願い』。一般部門：紹介者・渡邊尚（山梨放送）森見登美彦『【新釈】走れメロス他4編』。

山県大貳を学び、鬼面瓦をつくる 山梨県社会教育の会研修会

10月5日水曜日、山梨県社会教育の会は峡中地区を会場に研修会を行いました。この日は22名の会員が参加しました。午前中は甲斐市の偉人で学問の神様とあがめられている山県大貳について学習をしました。甲斐市の社会教育委員が、大貳を子どもたちに知ってもらいたいと編集して作成した紙芝居が敷島公民館の岡田さんにより上演されました。絵は敷島切り絵の会が作成しました。その後、甲斐市生涯学習文化課の大嶋正之さんが山県大貳の謎にみちた人生について講演をました。そのあと、山縣神社の現地視察をおこないました。



午後からは南アルプス市若草瓦会館で館長の永利郁乃さんより加賀美地区の瓦造りの歴史や館内の紹介を受け、鬼面瓦づくりに挑戦しました。この施設は県内の小中学生にも広く活用され、十日市では子どもたちの多くの作品が展示されるそうです。



「講座を通して培った力を地域に！」 —子育てリーダー実力アップ講座—



地域で子育て家庭を支援しているリーダーの方を対象にした、「子育て支援リーダー実力アップ講座」が山梨県立大学を会場に6月から10月まで、9日間開かれました。

この講座は、保育・幼稚園、放課後子ども教室、児童館、サポートセンター等の勤務の方など県内各地から30名ほどの参加で開かれました。講座は二本立てで、一つが児童虐待、DV、発達障害などの現代的課題や、育児やカウンセリングの基本などの講義、もう一つが各自の課題を生かしたグループ自主研究です。

最終日の10月7日はグループ研究の発表会がありました。どのグループもパワーポイントを巧みに作成し質の高い内容でした。その後、終了式が開かれ、県社会教育課・岩下課長より修了証が授与されました。講評では県立大・池田政子教授より、「この研修を通して生まれたネットワークを大切にこれからの活動に生かしてほしい」、同大・高野牧子教授より、「講座を通して培った素晴らしい実力を地域で生かしてほしい」と励ましの言葉がありました。



星を介してつながる

北杜市アートマネジメント連続講座第3回

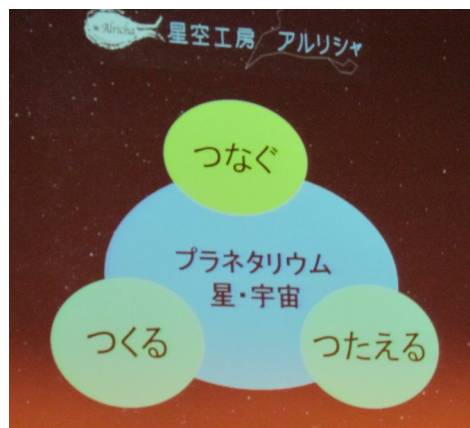


北杜市は山梨大学と連携して「アートマネジメント連続講座2016」という事業を行っています。10月12日は「サイエンス・アート・人をつなぐ星と宇宙—「星つむぎの村」の実践とともに」と題し、高橋真理子さん（宙先案内人／星空工房アルリシャ代表、星つむぎの村共同代表）の講演が行われました。

高橋さんは山梨県立科学館の設立が縁で山梨に来られ、天文担当としてプラネタリウムの解説や番組制作に携わり、現在は星や宇宙を媒介に様々な分野と人をつなぐ活動をしていらっしゃいます。特に、病院や施設での「移動プラネタリウム」や、星を見上げた2000人以上の想いをリレー形式で紡いだ「星つむぎの歌」

プロジェクトなどは広く知られています。講演では壮大な宇宙の映像を交えながら、星や宇宙、プラネタリウムに関する高橋さんの思いが語られました。（以下要旨です）

「星は、人間が時代（時間）や地域（場所）を超えてリアルに共有できる希少な存在である。また、星を見ることは人間の想像力を刺激し、時間や空間の概念を生み出してきただけでなく、自分の存在を意識させたり、夢や希望を育むことにつながったりしている。八ヶ岳山麓には、美しい星空がある。八ヶ岳から人々の幸せにつながる星空文化を発信していきたい。」



[お知らせ]

峡中地区・峡北地区
地域教育推進連絡協議会

期日：平成29年2月23日（木）14:00~16:30

会場：北巨摩合同庁舎

テーマ：「子どもの虐待」

平成28年度 『中北.com』No.4

編集・発行 中北教育事務所（飯田 矢崎）

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

中北教育事務所のHPからも、ご覧になれます。
<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>